年間業績発表　棚卸資料

部門　　入所　／　通所　／　訪問
PT　／　OT　／　ST
コアカリ（　認知症　）

当施設リハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。
棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後に活かすために実施します。
ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。
これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。
評価結果を下記にまとめてみてください。

≪年間目標≫

1.かかわる相手の事を知り、介入することが出来る
2.高齢者へのインタビューを行い、アセスメントの材料とする

●構造　structure

【人数、配置】
・認知症コアグループ：OT3名
　リーダー猪村（デイ）
　森副主任（入所）　公認心理師
　國場OT（入所）　認知症ライフパートナー2級
【物品】
・本「認知症の世界の歩き方」：森副主任私物
・本「高齢者のその人らしさの作業療法を捉える本」：猪村私物
・文献：Jstageなどのネット上での検索より収集
【量】
・コアカリキュラム勉強会2回開催　・グループでの集まり計5回

●過程　process

〇年間計画作成
〇目標1「かかわる相手の事を知り、介入することが出来る」
　・本「認知症の世界」を用いて、中核症状・周辺症状はその人はどう捉えているのかを学ぶ
　　→コアカリキュラムにて開催
〇目標2「高齢者へのインタビューを行い、アセスメントの材料にする」
・文献検索、本「高齢者のその人らしさの作業療法を捉える本」を通して得たアセスメント方法について概要を学ぶ
　　→コアカリキュラムにて開催
　　→実践までには至らず

●結果　outcome

・コアグループ間においては認知症の症状についての意識向上
　⇒リハ部へ汎化。フロアとの連携は行えず。実際周辺症状が顕著な方への介入には至れていない
・次年度に向けて、以前行っていたDBD、MMSE、VIの三つを合わせた点数追跡管理の実施、OTで導入予定の人間作業モデル理論内の評価ツールとも組み合わせての追跡を検討。

≪次年度持ち越し課題≫
DBD、MMSE、VIに加えの点数追跡管理の実施。認知症を有する方への人間さ行モデル評価ツールの活用方法の検討、追跡管理。フロア課題など非薬物療法の活動内容の検討。